

口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

口永良部島の GPS 連続観測では、平成 20 年 9 月以降認められていた新岳火口浅部の膨張を示す変化は、今年 2 月頃から鈍化しています。

二酸化硫黄の放出量は今年に入り減少しています。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いています。

これらのことから口永良部島では、新岳火口から 2 km 程度の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断し、本日（18 日）15 時 00 分に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 2（火口周辺規制）に引き下げました。

今後、新岳火口から 1 km 程度の範囲に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

○活動概況

・地殻変動（図 2～4）

GPS 連続観測では、平成 20 年 9 月以降認められていた新岳火口浅部の膨張を示す変化は、今年 2 月頃から鈍化しています。

・地震、微動の発生状況（図 4）

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いています。

・火山ガスや噴煙の状況（図 1、図 4）

気象庁、京都大学、独立行政法人産業技術総合研究所が 2 月に実施した火山ガスの観測では、二酸化硫黄の一日あたりの平均放出量は概ね 100 トンで、1 月 16 日に実施した火山ガスの観測（200 トン）に比べやや減少しています。

遠望カメラ（新岳火口の北西約 3 km）の観測によると、新岳火口から火口縁上概ね 50 m の白色噴煙が時々観測されています。

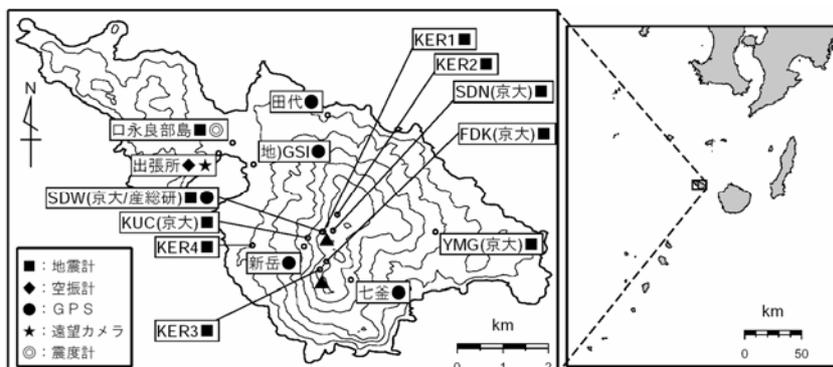


図 1 口永良部島 観測点配置図

※この資料の作成に当たっては、気象庁のデータの他、国土地理院、京都大学、独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しました（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。

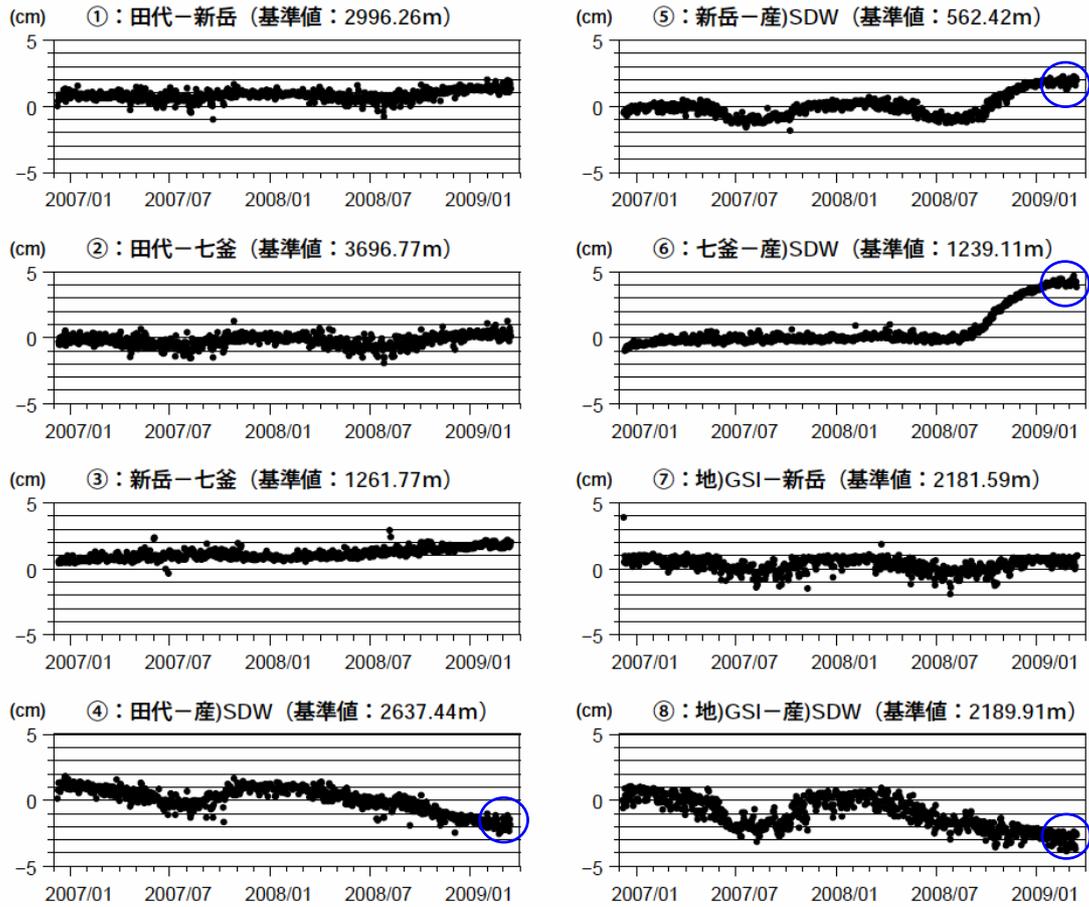


図 2※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化(2006 年 12 月～2009 年 3 月 16 日)
2008 年 9 月頃から新岳火口の膨張を示す変化が認められますが、2009 年 2 月以降、
膨張を示す変化は鈍化しています。(○は傾斜変動の鈍化を表します)。
この基線は図 3 の①～⑧に対応しています。

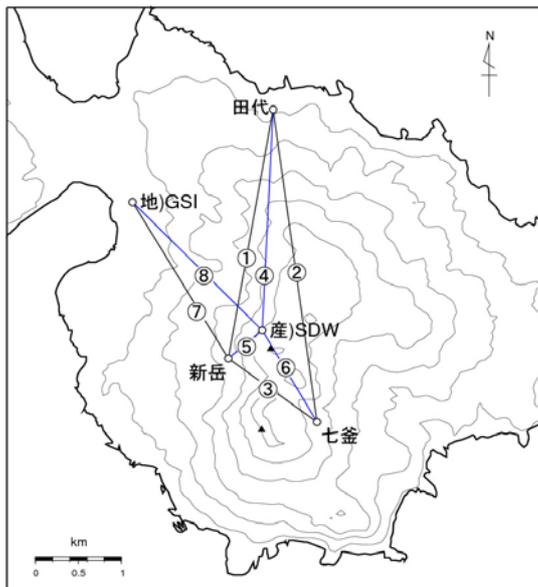


図 3 口永良部島 GPS 連続観測基線図

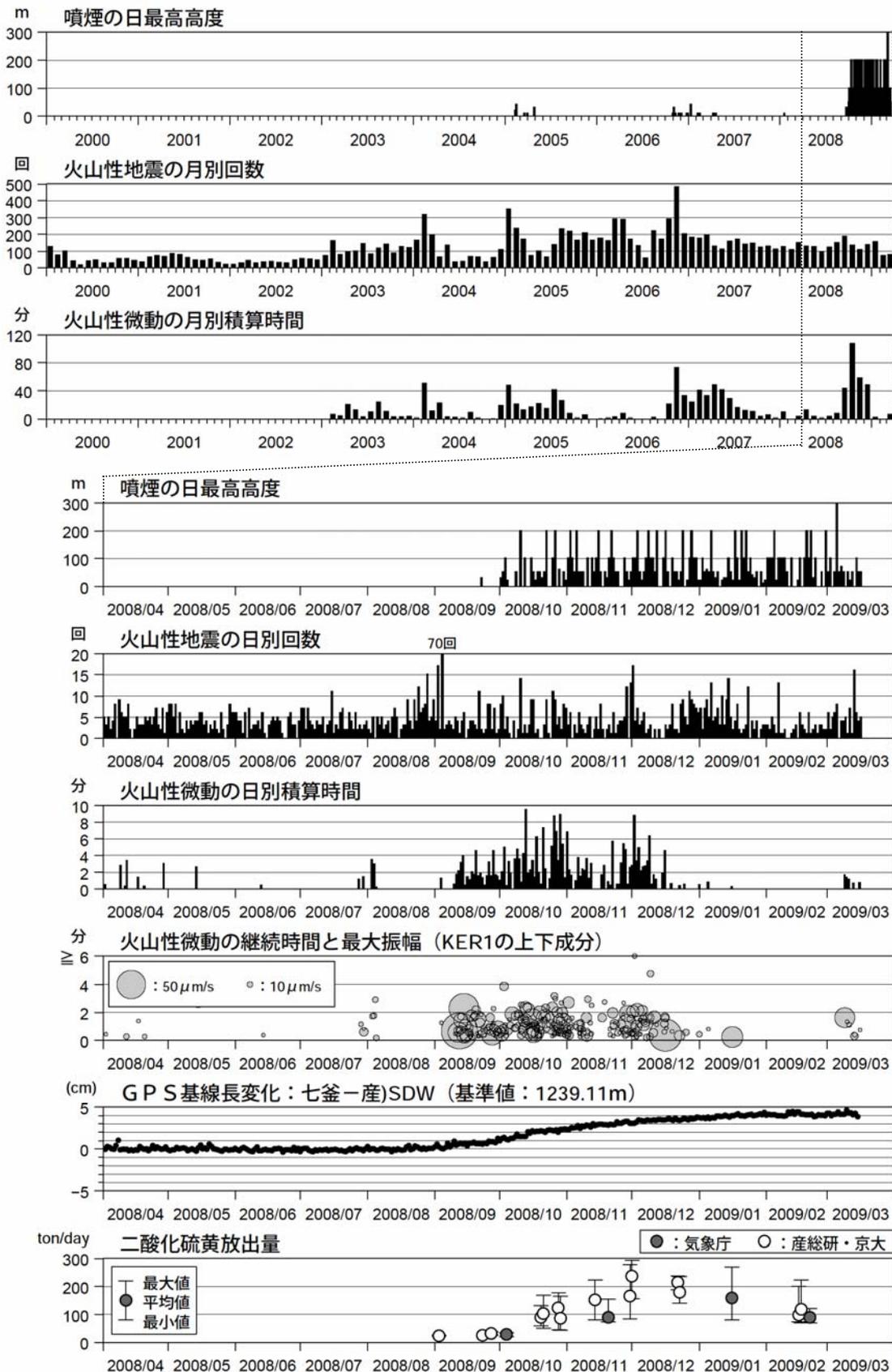


図 4 ※ 口永良部島 最近の火山活動の推移 (2000 年 1 月～2009 年 3 月 16 日)

- ・ GPS 連続観測では、平成 20 年 9 月以降認められていた新岳火口浅部の膨張を示す変化は、今年 2 月頃から鈍化しています。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は今年に入り減少しています。
- ・ 火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いています。